

第22回
今日の作家展'86
Artists to-day '86
11/14~11/27

魂の深層から

現代美術の 黙示録

I
“Apocalypse in
Contemporary
Art I
—from the depth
of soul”

いま、魂の奥深くにまでよびかける美術が必要とされる、と思われる。
感覚にとどまらず、そして溺れることなく、想像力を解放し、
あるいは直観を目覚めさせ、魂の深層に達し、そこで発火し、やがて世界との
関わり方を洗い浄めるような。現代美術の存在理由と活路も、
こうしたメンタルな次元と現実次元との往還運動を惹きおこす
試みにおいて、再検証されるはずだ。 企画・日夏露彦

●11月15日(土)午後3時より松澤、菅岡氏による
パフォーマンス、およびオープニング・パーティーがあります。
●11月23日(祝日)午後3時よりカタログ・テクストを
もとに作家・評論家・市民の対話による「美術の未
来」を行います。奮ってご参加下さい。

横浜市民ギャラリー

横浜市教育文化センター内 電話045-671-3721

国電関内駅南口下車3分 入場無料

主催 横浜市 横浜市教育委員会

松澤 宥

コンセプチュアル・アートの先駆者として今日の代表的なひとり。一次元的物質文明への危機感に発し、霊性顕現による超克を志向する。そのメディアは絵画、オブジェ、言語、記号、空間、行為など自在に駆使され、ぎりぎりに切り詰められ産出される美の形相はフェティシズム次元を裂開するエネルギーと超克の方向性を放つ。

魂の深層から

現代美術の 黙示録

I

"Apocalypse in
Contemporary
Art I
—from the depth
of soul"

米谷 栄一

奔出するマッスと色彩に展出される民俗美学のエネルギーとイメージ。抑圧をはねのけ、逆上する魂の運動の先で、霊性の光彩が降り拡がり、俗と聖の合一のエクスタシが喚起される。

菅 木志雄

フェティシズム支配下で美しき犯罪ともいえる非実体的関係の美学を'70年代初めより続ける。自然木、石、ロープ、紙、鉄片はいずれも匿名の位相で関係づけられ、概念と実体の微妙極まりない折衝状況の仮構に、身心の褻ぎと生命の神秘を体験させられる。